

母校沿革略誌

（「創立六十周年記念号」より）

所在地

本校所在地は、昭和六年四月一日より京都市に編入せられ、右京区花園馬代町と公称せらるゝこととなりしも、昭和三十九年九月、北区の新設に伴い、北区大將軍坂田町二十九番地と改めらる。敷地はもと山中平吾氏の獨力提供せられたる地域に係り、総坪数八千三百六十四坪なり。

創立

本校は、明治四十年四月、京都府立第五中学校の名を以て設立の認可を受け、三ヶ年継続の工事に着手し、四十一年二月十七日府立第一中学校教諭中野省吾本校校長に任命せられ、同年四月十一日開校式を挙行せり。校舎建坪は、当時千六百七十一坪、運動場二千二百坪。教室は生徒六百人、寄宿舎は百二十人を収容し得る設備とせり。

創立当時の概況

当時府下中学校入学志望者数、逐年増加を来たせるを以て、府議遂に本校の増設を決定し、同時にもと府廳の北側にありし第一中学校分校は廃せられ、一中本校及び分校生徒の内、第四学年以下二百二十余名は本校に収容せらるることとなるなり。即ち学級編成の都合上京都市を東西二部に区分し、第四学年は堺町通、第三学年以下は東洞院通を劃し、

其の以西に居住する生徒に対し、本校入学を命じたり。同時に、第一中学校分校に備附の器具、機械、書籍、標本類一切を其のまま本校に引継ぎたり。爾来毎年約百二十名乃至百五十名の入学者を府下一般より募り、大正二年度を以て予定の十五学級に達し、以て大正十年度に及べり。

当時の職員及び生徒

四十一年四月、第一中学校と協同にて入学試験を行い、合格者の内、九十七名の本校入学を許可せり。是と二年級以上四年級までの生徒を合して総数三百廿三名にして、各年級を二組、即ち合せて八組に分つ。此の時の職員は、中野（校長）、野々村、河野、清水、村山、吾郷、喜多尾、吹田、遠山、金田、岡、飯干、伊川、穴戸、米山、難波、グリーン（以上教員）、四方、田中（以上書記）、稲葉、太田、中村（以上武道嘱託）、久富（校医）の二十三名なりき。

創業の苦心

本校の創立当初の最大難点は、一中の分校的要素を含みたりしに在り。喜多尾教諭の懷舊の所記にいふ。「創業時代にはそれでも実は最初、中々生みの苦しみともいふものがありました。といふのは本校は元来一中の分身ともいふべきもので、初年度三百余名の在校生といふものは皆一中の貰ひ子でありました。校長もと一中分校長を勤めていられたので所謂一中畠の方ではありましたが、苟も今度新に府下に対し独立の学校を経営してゆく以上、燃ゆるがごとき抱負を高く翳し独

自の経綸を実行しつゝ邁進せねばならぬ。処が二年三年と一中式の訓練を受けてきた生徒の中には、習慣の急変から新施設に好感を持ち得ない者ができ、運動方針に、試験制度に、取締監督方法に服装規定に窮屈を訴へ不自由をかこつ者が絶えず続出したのを、うまく指導し根気よく統馭し来たつて、本校の基礎を盤石の上に築き上げ、もう是でやれやれ一ト安心という処で、校長は不幸病魔のために中途に斃れて了はれたことは返す返すも遺憾なことでありました」(「京三中」記念式臨時号より)と。

当時の指導法一斑

当時の訓練法として実施せるものの中、臨時試験に代ふるに日課点を以てし、二三週間ごとに廿分以内の試問を行ふこと、中食は担任教師監督の下に教室にてなさしむること、ツボンポケットの前方に向へるものを禁ずること、新卒業生中の上級学校志望者の為に、又成績不良者の為に、特に補習教育を施せること等は、今なほ其の趣旨旧のまゝに維持せられつゝあり。又校長の発案によりて生徒個性觀察表を作り、毎学年精細なる合議記入をなし、以て個性陶冶の参考に資せり。最近之に代ふるに生徒原簿を以てせるも、其の本旨は全く相同じ。又クラス会を認めざりしに代へて、年級会を開催せしめ、茶話、競技、展覧会等によりて、和氣藹々裏に心身の修養鍛鍊をなさしめたり。この前後は、とにかく開校当時の事として、校長も職員も、あわたゞしき中にも、万端にわたりて、特

に創試の苦心と燃ゆるがごとき希望とを以て事に当たれるは言ふを須たず。修学旅行に当たりては、予め目的地の教養上参考に資すべき事項を調査蒐集し、其の地の有識者とも聯絡を保ちおきて、到着後は生徒各自をして既定の分膽事項の觀察研究の結果を毎夜報告せしめ、附添教師をして一々批評を加へしめしが如き、或は特に運動部生徒の父兄会を開きて、部員の成績、他校との対抗等に周到なる用意と理解とを促せるが如き、如何に細心の注意を費ししかを察するに足る。生徒は毎時間控所を基点として其の時間の授業擔任教師引率の下に教室に出入し且集散せしめしが如き、生徒各自の机を五年間を通じて持上がりとし、又各自必ず雑巾を持参して清潔を保たしめしが如き、當時としては最も適切なる方法なりしなり。

学友会の今昔

最初の学友会各部は、陸上運動部、野球部、漕艇部、文芸部、武道部、の六なりき。その後漸次に増加せられ、最近に至り、総務部及び上記各部の外に、水泳部、蹴球部、籠球部、排球部、登山部、園芸部、射撃部、講話部の各部新設せられたり。陸上運動部は競技部、文芸部、雑誌部と改称せらる。

十五學級に

大正二年四月よりはより先、文部省より發布せられたる新教授要目を基本として、教授内容、授業時間数等に多少の変更と按配とを加へられたり。学級数は年を逐うて加はり来りしが、此の時全校合して十五学級となる。

同窓会創設

大正三年三月同窓会々則成り、十二月同会々報初号出づ、翌四年四月より、従来三年級以上に課したる武道を、二年級にも正科として課することとなるも、国民的精神の勃興と自覚との反映なるべし。

運動場改修

大正三年十二月、多年の宿望たりし運動場の軍国記念事業としての改修成る。

即ち敷地一帯を地下二三尺の深さに掘返し、石と土とを篩ひ分け、石を下に埋めて土を蔽ひ、ロールをかけて細砂を敷き、場の中央を小高く四辺をやゝ低くして雨後の水捌きを良くせり。

工費は学友会費の多年の節約によりて得たる剰余金と、工事を請け負ひたる小畑岩次郎氏の義侠的寄附工事とによりて完成せるものなり。

翌四年一月その竣工式を行う。

図書館の建設

天皇御即位の大典を京都皇宮にて行はせらるゝや、本校にては、特に之を記念し奉らん為に、図書館設置を企画せり。

同五年十月二十八日、御即位式記念図書館落成す。同館は、御即位式御建物中、第二朝集所着換室の一部を拝領し、本校学友会並びに同窓会の共同発起の下に本館西南の校庭上に移築し、設備を加へしものにして、同時に府に引継の手續を了した

り。館の総建坪は百二十坪八合余なり。備附図書は、寄附金による購入図書、学友会よりの補助金による同上、等にして、当初は内容や、貧弱なりしも、その後年々の新卒業生の寄附金より購入することとなりて、次第に完備に近づきつゝあり。茲年、学事運動両方面の一大改善を實行し、且理化博物等の実習材料の大補充を断行せり。

第三中学校と改称

大正七年四月一日、文部省告示に依り、本校は京都府立京都第三中学校と改称せられたり。「五中」と呼ばれて以来恰も満十周年を経たり。

雨天体操場成る

同年十二月三日、本館の東南に雨天体操場一棟を造築す。本建築物は、御即位式御建物の一部を御下賜ありしを、附費を以て移築せられたるものなり。同日府より引継を受く。総建坪は七十八坪二合余なりき。

本校関係故人追悼会

同九年四月、同窓会学友会の共同発企の下に、本校職員卒業生在学生にして物故せる者の為に、特に追悼会を神式にて執行す。

二十学級定員一千人に

同十一年度より、学級を二十とし、生徒定員一千人を収容することに改められ、同年度以降、第一学年は一学級五十人づつを増募することとなり。

中野校長逝去

同十一年十月一日、校長中野省吾長逝す。是より先、前年四月、同校長は南亞南米地方視察の長旅を果し

て帰朝せしが、帰来健康漸くすぐれざるものの如く、やゝ憔悴の状見えたり。而も不撓の資質は、寸時の安居静臥を容さず、旦暮身を忘れて劇務に没頭せしかば、茲年の冬頃より遂に病を獲、衰弱の状日に加はり行きしも、なほ敢然として校務に執掌しつゝありたり。病愈々篤く、翌十一年五月に至り、登校服務に困難を感じ、自宅に引籠ることとなりしも、なほ校務を視るは故の如くなりき。此の夏頃より漸く起つ能はず、百方医療の手を尽くししも其の効無く、是に至りて終に永眠せり。同五日、妙心寺龍泉庵にて本校学友会同窓会共同を以て校葬を執行す。会する者親戚の外、府下の名士知人故舊及び遠近より来会せる本校出身者、並びに在校生等無慮数千名。葬儀は最も盛大に厳肅に行はれたり。職員も生徒も、ひとしく悲傷追慕の涙をしばる。

藤森校長就任

同年十一月八日、藤森勝郎新に校長に任せらる。十三日着任、就任式あり。其の間喜多尾道誠教諭、校長心得を命ぜられ、校長の事務を処理す。

体操場を教室に

大正十二年七月、雨天体操場地盤をコンクリートに改め、体操授業に便せり。翌十三年四月、学級の増加に伴ひ、教室不足なるより、雨天体操場を教室に改造せり。

将校配属

同十四年四月、学校教練の振作の為に、陸軍現役将校を配属せらる。爾後生徒訓練上の面目を一新することと

なり、次第に顕著なる効果をあげつゝあり。身体のみならず強健ならざる生徒も、野外教練等には欣喜踴躍して之に趣くの風あるは、最も欣ぶべし。

地歴教室設置

曩に大正五年、御大典御建物の一部を拝領して建設せる図書館の同棟の半部は、地理歴史教授材料の陳列等に充てられつゝありたり。同十五年四月に至り改めて地歴特別教室及び陳列室に充つることとなり、其の設備を整へたり。

其の後別に歴史館成りしかば、之を普通教室に使用することとせり。

朝会を創む

大正十四年九月、新学期より毎週月曜日第一次限の初めに於いて、朝会を行ふことに定めらる。爾來繼續して今日に至る。

夏期特別授業

昭和二年七月より、上級学校入学者の爲の準備教育として、且下級生の学力補充教育として夏期休暇中の特別授業を行ふ。其の後、冬期休暇中にも之を行ふこととなり、相当の効果を挙げつつあり。

理化教授設備の充実

昭和三年七月、寄宿舎建物の一部を売却し、運動場を拡張し且理化実験室の大改善を行へり。恰も其の八月には、河原林榎一郎氏より、本府々立中学校理化教育振興の爲に本府に寄与せられたる金壹万円を本校に下附さるゝあり。是によりて、機械、器具類を購入し又工作の設備を充実

するを得、理化科は中等学校としては他に比類少なき極めて豊富なる備品を有することとなり。同時に氣象観測の設備をも整へ、京都測候所と聯絡を保ちて、日々校前の百尺竿頭に晴雨を予告する旋旗の翩翻たるを見るに至れり。同年十一月理化展覧会を開催し、備品及び生徒製作品を一般公衆に観覽せしむ。

中野前校長胸像建立 同十二月、御大典記念として、同窓会員の寄附金より成れる前校長中野省吾氏の胸像除幕式を挙行す。本胸像は本校出身者島津良蔵氏の製作に係り誌銘は喜多尾道誠教諭の撰文に成る。是により職員生徒は前校長の厳容を日々にしのび得ることとなり。

御眞影奉安庫謹設 昭和四年四月二十九日、生徒父兄有志より昭和御大典記念として建設寄附されたる、御眞影奉安庫の竣工式を挙行す。南向、建坪約九坪。鉄筋コンクリート、耐火耐震、瀟洒にして且堅牢なるを旨とせり。其の正面の金色燦然たる菊花の御紋章は、神聖なる国体の無上の表徴として、永く本校精神教育の基準たる誠敬摯実の至念を持続せしむる最高対象たるべし。

学友会誌を京三中と改む 同五年三月を以て学友会誌は号を重ねて既に第二十三号に達するに至れり。従来は毎年一回発行を常例とせるも、記事の増加、報告の周到、興味の普遍等の事情を考慮せる結果、茲年より年五回（外に会員名簿を別刷す

ること）即ち一学期二学期は各二回づゝ、三学期は一回、発行することに改められたり。（但し今年に限り三回とす）同時に題号を「京三中」と改む。菊版二倍大一回を約十六頁とし、記事の多少によりて随時伸縮を加ふることとせり。（学友会各部史、雑誌部参看）

歴史館成る 同年五月二十五日、昭和御大典記念歴史館竣工式を挙行す。本歴史館は、御即位式御建物の一部を拝領し、父兄、同窓会、学友会、職員、其の他の篤志者の寄附金を以て移築建設せられしものなり。総建坪七十七坪。教室二、陳列室一より成り、教室は光線の通遮完全に近く、陳列室は係員の熱心なる蒐集により、豊富なる地理歴史教授資料及び参考品を具備するに至り、以て国民精神の涵養に資しつゝあり。（展覧会、歴史科参看）

四綱領の制定 同五年九月二十九日、東宮殿下行啓記念日を機とし、本校の四綱領を制定し、且生徒全般に公示せり。曰く、誠実、曰く、剛健、曰く、進取、曰く、協同。本綱領は、綱領委員の発案に基づき、全職員の精到なる研究洗煉を経て確定せるものなり。此の四綱領を生徒の脳裏に断えず新たならしめんが為に、特に前京都帝国大学総長荒木寅三郎氏の揮毫を請ひ、現に講堂正面に墨痕淋漓として高く掲げられつゝあり。

道場に神壇を設く

同年六月、新たに道場に神壇を設け且

道場を拡張せり。是より先、大正六年にも、床板の張替其の他の大修繕加へられしが、是に至り、道場は更に森嚴の氣を添ふるに至れり。

校歌制定 同七年一月、本校々歌を制定し、且印刷に附して生徒全般に頒布せり。本校歌は、同窓生、在校生、及び職員より募集せる数種の稿案を参考資料とし、本校国漢科擔任職員の合評取捨と、校歌委員の採擇精校とを経て成れるものにして、評校に供する原案の作製は大塚教諭主として之に当れり。歌曲は東京音楽学校教授信時潔氏に依頼して作成せられたるものなり。

教室増築 同月十九日、教室増築工事竣工す。此の教室は、雨天体操場を改造せる教室にて平屋なりしを、更に二階建とし、教室となせるものなり。建坪二百五十五平方米、教室六。

寄宿舎廃止 同八年三月末日限り、寄宿舎廃止せらる。同舎は府下の中学校増加と交通機関整備とに伴ひ、其の必要漸次に薄らぎ来りしより、市内の公立中学校にては何れも廃止することとなりしに依る。舎は、最初妙心寺内の聖澤庵、海福院、福寿院等を仮宿舎として之に充てられしが、明治四十二年四月、衣笠山麓なる真如寺に移り、翌四十三年一月校内に寄宿舎落成せしにより、同寺よりこゝに移れり。茲年廃止せらるゝまで二十二年余を経たり。廃止後本校にては、前舎監等の幹旋

により、便宜上、校外に合宿所を設け、桜花寮と名づけ、居残りの舎生を収容し、監督には前舎監之に当たることとなれり。
(寄宿舎史参看)

プール建築 之より先、本校にては、今年度(昭和八年度)が恰も創立以来二十五周年に相当するを以て、之が祝典を挙行するの計量を徐々に進めつゝありたり。同窓会員は夙に之を聞く所あり、早くも其の挙を賛し、記念事業の一部として、プール設置を企劃し、主として同会員の募金によりて実現せんことを期し、其の実行に邁進せり。今や既に工事は着々進捗し、近く完成を見んとするに至れり。(同窓会誌参看)

スタンド設置 然るに本年八月に至り、本校生の父兄は、同窓会員のプール設置の計劃中にスタンドを缺くを聞き、同窓会員の諒解と父兄全般の賛同とを得て其の設備を図り、別に募金をなし、今や略ぼ予定額に達せり。プール工事の進捗に随つて之が工事に着手せらるゝの日も、且に近きに在らんとす。

運動場修理 本校運動場は、瓦礫土塊等を十分地下深くまでに精篩せずして速成せるものになりしを以て、徒歩の活動には不便少なからず、且排水設備等十分ならず、使用上障礙多かりき。然るに父兄有志は記念事業として同時に運動場改修費用をも募金することとし、其の実現に努力されたり。やがて坦々砥の如き踏心地好き運動場は遠からずして吾等の前に出現すべ

し。

京三中父兄会成立

叙上の諸事業に従事しつつありし父兄は同時に此の際常置の父兄会をも成立せしめんとし、是また去る十一月を以てその組織を完成し、爾後着々その目的を實現しつつあり。

創立二十五周年記念式挙行

二十五年といえば四半世紀なり。この間無事に順調に校運の発展せるは、亦以て相共に慶賀するに足る。茲に祝賀の式典を挙ぐるを得るに至れるは、本校関係者の齊しく欣喜愉悦に堪へざる所なり。(以上、創立廿五周年記念誌より抄録転載)

一、昭和八年十二月

創立二十五周年記念誌発行

一、昭和九年九月

プール(同窓会寄贈)、同スタンド(父兄会寄贈)竣工

一、昭和十一年三月

京都府立京都第三中学校夜間中学創立

一、昭和十二年三月

体育館、生徒控所、武道場竣工

一、昭和十三年七月

三階建校舎改築工事起工

一、昭和十四年十二月

三階建校舎竣工

一、昭和十八年四月

夜間中学を京都府立双陵中学校と改称

一、昭和二十一年四月十五日

藤森勝郎校長退職

川瀬章一氏 学校長に就任

一、昭和二十二年四月三十日

川瀬章一校長 退職

池田茂登教諭 学校長事務取扱に就任

一、昭和二十二年五月三十一日

池田茂登氏 学校長事務取扱を免ぜらる

幸村法輪氏 学校長に就任

一、昭和二十三年四月一日

学制改革により、京都府立京都第三中学校を京都府立山

城高等学校、双陵中学校を京都府立双陵高等学校として

発足

一、昭和二十三年十月十五日

山城高校（全日制）に、総合制（普通科、商業化）、男

女共学制、通学区制を実施して再編成し、双陵高校に男

女共学制を実施し、山城高校定時制とする。

幸村法輪校長転任

佐竹大鑑氏 学校長に就任

一、昭和二十五年十二月三十一日

佐竹大鑑校長 退職

小泉義兵氏 学校長に就任

一、昭和二十七年九月

旧武道場を移築して、商業実践教室一、普通教室三とする工事竣工

一、昭和三十一年三月三十一日

小泉義兵校長転任

一、昭和三十一年四月一日

高乗勲氏学校長に就任

一、昭和三十二年三月

四階建本館改築第一期工事起工

一、昭和三十二年十二月

第一期工事本館竣工

一、昭和三十三年三月

三階建理科教室改築第二期工事起工

一、昭和三十三年九月

第二期工事竣工、京三中・山城高同窓会寄贈の正門竣工

一、昭和三十四年三月三十一日

高乗勲校長退職

一、昭和三十四年四月一日

秋山羊一氏学校長に就任

一、昭和三十七年四月

パイプ普通教室一竣工

一、昭和三十九年三月

木造教室二増築竣工

鉄筋三階建便所竣工

一、昭和四十年三月三十一日

秋山羊一校長転任

一、昭和四十年四月一日

山崎秀雄氏学校長に就任

一、昭和四十二年三月三十一日

山崎秀雄校長退職

一、昭和四十二年四月一日

小林芳夫氏学校長に就任

一、昭和四十四年三月一日

新体育館兼講堂竣工。同窓会、大綴帳を寄贈

一、昭和四十四年十月

小林校長、双陵同窓会長に就任。